

## エルサルバドルから学ぶ ワーク・ライフ・バランス

<b>所属</b>	愛知県立瑞陵高等学校	<b>実践者</b>	田中 真弘
<b>対象</b>	定時制高校2年生	<b>時間数</b>	28時間
<b>場所</b>	教室	<b>実践教科</b>	コミュニケーション英語Ⅱ
<b>ねらい</b>	発展途上国「エルサルバドル」と先進国「日本」の仕事や生活のバランスを考え、どうすればお互いに豊かに生活できるかを自分たちの目線で探してみる。		
<b>実践内容</b>	<b>回</b>	<b>プログラム</b>	<b>備考</b>
	1-3	<b>◆ブレインストーミング</b> 「発展途上国」という言葉から何が思い浮かぶか想像してみる。 「エルサルバドル」という国をイメージしてみる。	答えは様々で1人1人を肯定する。(多様性)
	4-6	<b>◆あるものないもの</b> 対比表を使ってエルサルバドルにのみあるもの、日本にのみあるもの、両方にあるものを想像してみる。	
	7-9	<b>◆データで知る</b> エルサルバドルのことを地理、経済、貧困、治安の悪さなどの観点から知っていく。	
	10-15	<b>◆エルサルバドルの授業体験</b> エルサルバドルの教科書を使って英語の授業を体験してみる。 ①“Language used to order food” 「料理を注文するときの言葉」 ②“Tipping” 「チップの習慣と仕方」	
	16-21	③“Identifying Appropriate Expressions to Make, Accept, and Refuse Invitations” 「承諾したり断ったりするときの適切な表現」 ④“Interview for a Job” 「仕事のための面接」	
	22-28	<b>◆ワーク・ライフ・バランスについて考える</b> エルサルバドルと日本を比較して、仕事と仕事以外の生活のバランスの必要性を探る。	
<b>成果</b>	エルサルバドルのことを知るといこと、国際理解教育に興味を持つこと、自分たちの暮らしにどう関わってくるのかということを考える有意義な時間が取れた。		
<b>課題</b>	発展途上国が遠い存在から身近に感じられる存在になってきてはいるものの、まだまだ想像上のものであり、自分たちが何か行動を起こすというところまでは至らなかった。		
<b>備考</b>	生活する中で必要なものの子どもの価値観が大人と違っていたのは興味深かった。		

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1-3 時限目「ブレインストーミング」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① ブレインストーミングで「発展途上国」をイメージする。
- ② 「エルサルバドル」という国について偏見なしに想像してみる。
- ③ 個人で絵を描いて、グループでシェアする。

#### この時限のねらい

発展途上国を偏見なしに素直な気持ちで表現させる。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 発展途上国はものがないという意見が多く、「エルサルバドル」という言葉の響きは中世のヨーロッパをイメージする生徒が多かった。
- ◇ 個人で絵を描いて、グループでシェアすると1人1人が違ったイメージを持っていることがわかった。
- ◇ 外国の国は日本とまるで違うと思っている生徒が多かった。

#### 3 使用した教材

<教材> A4用紙、模造紙、ポストイット、マーカー

### 4-6 時限目「あるものないもの」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① ポストイットに日本になくてエルサルバドルにあるものを想像して書いてみる。
- ② ポストイットにエルサルバドルにあって日本にあるものを想像して書いてみる。
- ③ 両方の国にあるものを書いてみる。

#### この時限のねらい

エルサルバドルと日本の違いをものに関して想像させる。特に学校における違いに焦点を当てさせる。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ エルサルバドルには日本にあるものがたくさんあるという意見と、全くないという意見に分かれた。
- ◇ エルサルバドルの学校にはグラウンドや図書室がなく、日本がいかに恵まれているかを知った。
- ◇ エルサルバドルにはコンビニがないのに、スマートフォンがあるのが意外であった。

#### 3 使用した教材

<教材> 模造紙、ポストイット、マーカー

**7-9** 時限目「データで知る」**1** 子どもの活動の流れ

- ① エルサルバドルの地理的位置を確認。
- ② エルサルバドルの経済的問題を話し合う。
- ③ エルサルバドルの治安の悪さを貧困問題と絡めて議論する

**2** 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ヨーロッパのどこかにあるという意見と南米のどこかにあるという意見が多く、日本から遠く離れた国であるというイメージがあった。
- ◇ 経済的に中南米で最貧国の内の一つであること、資源が乏しく発展が難しいことなどを知った。
- ◇ 貧しさ故に「マラス」というギャングに入ってしまう若者が増加していて、殺人件数も世界1、2位という治安の悪さを知った。

**3** 使用した教材

<教材> マーカー、ポストイット、模造紙

**この時限のねらい**

今まで想像の域でしかなかった自分たちのエルサルバドル像を実際のデータや教師の訪問経験から知り、率直な感想と意見を述べ合わせる。

**10-15** 時限目「エルサルバドルの授業体験①-②」**1** 子どもの活動の流れ

- ① “Language used to order food” 「料理を注文するときの言葉」
- ② “Tipping” 「チップの習慣と仕方」

**2** 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 日本では文学や偉人などのトピックが多いが、エルサルバドルでは実生活に密着した話題が多いことに気付いた。
- ◇ 実際にメニューを見ながら、ある一定の条件を満たす注文ができるようになった。
- ◇ チップの習慣を学び、効果的なチップの計算方法と仕方を体験した。

**3** 使用した教材

<教材> Chacon, Reina Isabel. “Language used to order food,” “Tipping.” Time to Learn English Tenth Grade. Inverprint S.A. De C.V. El Salvador, 2014.

**この時限のねらい**

エルサルバドルの高校生がどんな教科書を使ってどんな内容で授業が行われているかを体験させる。

**16-21** 時限目「エルサルバドルの授業体験③-④」**1** 子どもの活動の流れ

- ① “Identifying Appropriate Expressions to Make, Accept, and Refuse Invitations”  
「承諾したり断ったりするときの適切な表現」
- ② “Interview for a Job” 「仕事のための面接」

**この時限のねらい**

引き続きエルサルバドルの高校生がどんな教科書を使ってどんな内容で授業が行われているかを体験させる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ アルバイトをしている生徒が多く、どうやったら仕事の面接がうまくいくかを考えた。
- ◇ 日本と英語圏での仕事の面接の違いにいかにかにアピールが必要かわかった。
- ◇ 日本語でも英語でもトークのスキルが大事だとわかった。

## 3 使用した教材

<教材> Chacon, Reina Isabel. “Identifying Appropriate Expressions to Make, Accept, and Refuse Invitations.” Time to Learn English Tenth Grade. Inverprint S.A. De C.V. El Salvador, 2014.

# 22-28 時限目「ワーク・ライフ・バランスについて考える」

## 1 子どもの活動の流れ

- ① エルサルバドルのできる仕事と生活を考える。
- ② エルサルバドルではできなくて、日本でのみできる仕事と生活を考える。
- ③ エルサルバドルと日本で共通した仕事と生活を考える。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ エルサルバドルと日本のできる仕事と仕事以外のことを理解して、両国で共通した仕事と仕事以外の生活があることを理解した。
- ◇ これからエルサルバドルで生活していく仮定で、自分たちには仕事では何ができるか、仕事以外では何がしたいかを考えた。
- ◇ エルサルバドルでの仕事と仕事以外の生活がみんなで協力することにより、実現可能に近づこう考えた。

## 3 使用した教材

<教材> 模造紙、ポストイット、マーカー

### この時限のねらい

エルサルバドルと日本を比較して、仕事と仕事以外の生活のバランスの必要性を探る。自分たちがこれからどうやって生きていけば良いかのヒントを探る。

## 全体を通して

### 1 授業の様子



### 2 参考文献・資料

- 1) Chacon, Reina Isabel. Time to Learn English Tenth Grade. Inverprint S.A. De C.V. El Salvador, 2014.
- 2) なごや環境大学実行委員会 ESD 推進チーム. ESD はじめの一步. 名古屋市環境局. 2015.3.